

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 (使用評価ソフト: osk_CASBEE-BD_NC_2016(v2.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪大学グローバルビレッジ施設整備	階数	地上11F
建設地	大阪府吹田市津雲台5丁目20番4号	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内、市街化区域	平均居住人員	820 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,病院,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2018年12月14日
敷地面積	8,927 m ²	作成者	斉藤
建築面積	2,575 m ²	確認日	2018年12月14日
延床面積	14,333 m ²	確認者	斉藤



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	88%
③上記+②以外の	88%
④上記+	88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

音環境	3.1
熱環境	1.9
光・視環境	2.9
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

機能性	3.1
耐用性	2.9
対応性	2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

建物外皮の	3.5
自然エネ	2.2
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

水資源	3.0
非再生材料の	3.2
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.4
地域環境	3.0
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
敷地内は緑が繋がる自然法面のオープンスペースを整備した。十分な緑地と空地を確保し、自然通風・採光が確保しやすい配置計画とした。また急激な降雨に対応した雨水調整機能も計画。		節水型大便器を住宅系の室499戸を始め、施設全体に亘って採用。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
屋上等は厚さ50mmの断熱材を用いた外断熱、外壁は厚さ25mmの内断熱、寮室や教職員宿舎等主要な室の窓は複層ガラスを用いた断熱性能を向上させ、空調負荷を軽減します。	窓拭きが容易になるように、学生寮寮室や教職員宿舎居室に面する外部にバルコニーを配置した。将来の更新を想定し、学生寮寮室や教職員宿舎の居室にはビームレスを採用。受変電設備は屋内オープン型電気室とし、更新・メンテナンス	敷地内は法面緑化や既存樹木の保存等で緑地率30%以上の緑地を確保し、住環境の向上に努めた。外壁の低層部はアースカラーのタイル張り、高層部は空に溶け込む白色系の外壁とし、周辺環境との調和を図った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
日射遮蔽率を図り、断熱性能を高めるよう、居室前には全面バルコニーを配置した。太陽光発電設備の設置やソーラー街灯を採用した。	灰溶融スラグ入りインターロッキングブロックを採用した。限りある資源を有効に利用する。ABC消火剤を使用しない。	道路や隣地から十分な離隔を確保し、緑地や広場を設けることで、周辺地域に配慮した計画とした。既存の敷地の高低差を生かしながら、街路に面しては緑化された自然法面とし、ベンチを設ける等街区に潤いを与える計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0127

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	大阪大学グローバルビレッジ施設整備運営事業							
	建設地	大阪府吹田市津雲台5丁目20番4号							
	用途/区分	集合住宅 病院 物販店							
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B+					
①	CO2削減			3					
②	みどり・ヒート アイランド対策			3					
③	建物の断熱性			4					
④	エネルギー削減			5					
⑤	自然エネルギー直接利用			—					
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.4	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.5	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.2	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		